

競争入札により飼料価格を低減

ひので酪農協(茨城県)

取組の概要

- 酪農家から大量発注により入札等の有利調達が可能飼料の開発の要請があったことを受けて農協がプライベートブランド飼料(PB飼料)を製造。
- 獣医を中心とした農協の職員が、酪農家にアドバイスをしつつ飼料の品質を改善し、多くの組合員がPB飼料を導入。これによりPB飼料の大量発注が可能となり、入札による有利調達が実現。

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 大量発注が可能な飼料の開発

- ① 飼料価格の低減に向けて、10戸の酪農家から銘柄集約による大量発注により入札等の有利調達が可能な飼料の開発の要請があったことを受け、平成25年より農協のプライベートブランド飼料(PB飼料)を製造。
- ② 獣医を中心とした農協の職員が、酪農家に対しアドバイスを行うとともに、乳質等の分析を行い、PB飼料の品質等を改善することにより、酪農家の納得のいくPB飼料を製造。
- ③ その結果、約3割の組合員がPB飼料を導入することにより、入札による大量発注が可能となり、飼料コストの低減を実現。

2 入札による価格の低減

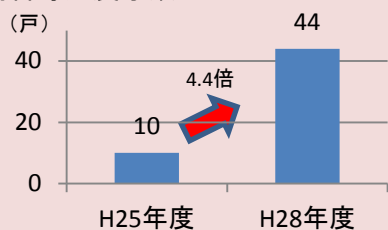
- ① PB飼料について、月間100t以上の調達を確約し、製造受託者が農家に飼料設計等の技術指導を行うことを条件として入札を実施。
- ② PB飼料の契約期間は長期(現在は3年)にわたることから、四半期ごとに価格の改定を行っているが、改定が恣意的にならないよう、改定幅についてPB飼料と同様の飼料と同じにすることを入札説明書に記載し、価格改定の透明化を実現。

3 組合長をはじめとする農協の強力なサポート

PB飼料の導入により他の飼料メーカーからの仕入れが減少することになったが、農協が他のメーカーとの軋轢などを気にせず、酪農家のためにPB飼料の導入を推進。

農協のメリット・農家のメリット

<PB飼料導入農家数>

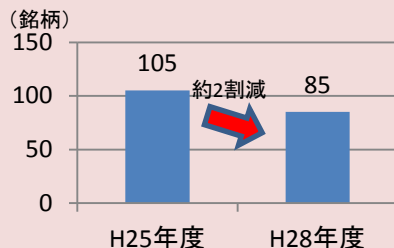


<農協のPB飼料調達数量>

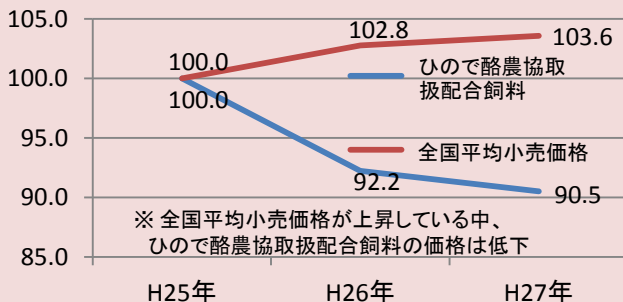


※ ひので酪農協の飼料取扱高は約1,500t/月(H28年度)
PB飼料は、農協の取扱高の約1/3を占める

<農協の飼料取扱銘柄数>



<農協取扱配合飼料の平均価格>



※ 全国平均小売価格が上昇している中、ひので酪農協取扱配合飼料の価格は低下

※ 全国平均小売価格は、農作物価統計調査(農林水産省)の配合飼料(乳用牛(飼育用))のH25の価格を100とした値
※ ひので酪農協取扱配合飼料の価格は、H25の価格を100とした値